

8-4-12 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会開催

専門委員会開催回数：10回

4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、技術部会等への報告・連絡及び、本年度検討項目の審議等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発し、特に、令和2年7月豪雨により熊本県等において多くの災害が発生した。令和元年の土砂災害発生件数は、967件（土石流178件、地すべり74件、がけ崩れ961件、令和元年12月22日現在）に上り、また、37府県において土砂災害が発生した。その被害は、死者16名、全壊家屋37戸等となっている。

当専門委員会では、これら災害調査等の支援を行うとともに、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 令和2年度の活動

a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（令和元年版）を作成した（A3版表裏1枚）。

砂防講習会等において会員に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。

b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月15日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。

c) 第15回砂防現地見学会は、新型コロナへの対策が十分に確保できないため中止とした。

d) 令和元年度業務等に関するエラー事例等の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。品質セミナーは、ビデオ配信で実施した。また、東京都のエラー講習会に委員を派遣した。

e) 第11回砂防講習会は、コロナ対策を十分に
行い、また、参加者を例年の半分程度として11

月17日に開催した（26社、44名参加）。講師は、一般財団法人砂防・地すべり技術センター五十嵐勇氣主任研究員に「張出しタイプ流木捕捉工設計の手引きの発行と鋼製砂防構造物設計便覧の改訂の方向について」、岩手大学農学部 井良沢道也教授に「台風19号に関する土砂災害状況について」、国土技術政策総合研究所土砂災害研究部 山越隆雄室長に「土砂・洪水氾濫の考え方と今後の展望や課題」、国土交通省砂防部保全課 伊藤仁志課長に「近年の災害と今後の砂防行政について」を講演頂いた。その他、講演内容をビデオ録画し、HPに掲載し、多くの会員が閲覧できるようにした。

f) 砂防業務改善について、新たな照査要領作成項目として「砂防堰堤予備設計」選定し、その要領案を作成した。補強改築標準設計について国土交通省砂防部と意見交換し、当面の課題と窓口を決定し、進めることとした。

g) 若手技術者交流会については、コロナ禍にかかわらず日本大学側の強い要請に基づき12月3日、学生説明会をWEB方式で開催、68名の参加があった。その他、流木捕捉工設計事例集をとりまとめ発刊し、関係機関に配布するとともにHPに掲載した。

2. 次年度の活動について

令和3年度は、砂防部との意見交換会等を踏まえ業務の諸課題を再整理し、それらの解決策を提案する。

(1) 第15回砂防現地見学会実施を検討する。

(2) 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を行う。

(3) 第12回砂防講習会を開催する。

(4) 国土交通省砂防部等との意見交換会を開催する。

(5) 令和2年度版活動パンフレットを作成する。

(6) 若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会や学生説明会を実施する。

(砂防・急傾斜専門委員会委員長 坂口 哲夫)